

## 誓いの言葉

毎朝見上げる校庭の木々もすっかり葉を落とし、秋の深まる季節となりました。今年、私たちの学校、明治大学付属明治高等学校明治中学校は、創立から百年という節目の年を迎えました。本日のこのような栄えある記念式典に、多数の来賓の方々、先輩の皆様方のご臨席をいただきましたことに、在校生を代表いたしまして心より御礼申しあげます。

私たちの学校は九十五年もの長い時間を御茶ノ水で過ごし、そして四年前に校舎移転と男女共学化という大きな転機を迎えました。学校が大きく変化していく中で、代々先輩方が受け継いできた伝統をどう繋いでいくか、私たちはその方法をずっと模索してきました。そして新生明治五年目にして、私たちはやっとその答えを見つけることが出来ました。答えは我が校建学の精神にありました。質実剛健、独立自治。岸本辰雄先生が時流に左右されることのない学校をと、この学校を創立されてから百年間もの長い間受け継がれてきた、本質を見極め、自らを律し自らを治めるという建学の精神です。

女子初の生徒会長と応援団団長、また百周年記念紫紺祭開催などと新しい挑戦ばかりであった今年、新たな試みは御茶ノ水以来の伝統を途切らせてしまうのではないかと、私たちは悩みました。しかし新たなものを創造することと伝統が途切れてしまうことは必ずしもイコールではないと気付いたとき、今まで言葉としての存在であった質実剛健、独立自治が私たちにとってひとつの実感となりました。新しいことに一歩踏み出す勇気とその一歩を受け入れる勇気こそが伝統を繋いでいく手段であり、またこれこそが今求められている、質実剛健、独立自治なのであると、私たちは気が付いたのです。百年もの重みのある伝統は何物にもとってかわることのできない大きな財産です。しかしだからといって、その歴史の重みに頼り伝統に甘んじるだけではいけません。私たちを巡る環境や価値観は着実に変化しています。私たちには、伝統の本質を見極めてそれを繋いでいきつつも、未来にむけて自ら考え、新たな行動を起こせる力が必要です。この力こそが質実剛健、独立自治です。百年前の建学の精神は今こそ必要なのです。

先日行われた百周年記念紫紺祭のテーマは「再び熾す！明治維新」というものでありました。金子光男校長からも「百年に向けて火を熾せ」と激励の言葉を頂きました。急速にグローバル化が進んでいくこれからの社会には、国という枠を超えた、地球規模の文化や価値観があふれています。私たちは、多様な価値観を理解し、時代を切り開き、社会を変革していくことのできる、強い意志と勇気を持たねばなりません。百年間という時間を超えて受け継がれる意志、繋ぐ思いを胸に、火を絶やすことなくこれからの百年へと、そして世界へと羽

ばたいていくことをここに誓います。そしてご臨席の皆様これからも明治中学・明治高等学校と私たちを温かく見守ってくださるようお願い申し上げ、生徒代表の言葉といたします。

明治大学附属明治高等学校・中学校  
第六十五期生徒会長 芦沢柚香